

5. 地域に誰でも参加できる遊び場を作り、子供たちの体と心を育てる

グループ名 NPO 法人バオムフットボールクラブ

代表者 前村 大樹

① 活動の目的

- ・ボール運動禁止の公園が増える背景の中で子どもたちが思いっきり安全にボールで遊べる環境整備
- ・海外のボール運動プログラムを取り入れ、低下傾向にある運動能力の向上
- ・老若男女問わずボール遊びを通して地域でコミュニケーションをとれる環境づくり

② 活動概要

「ボール遊び禁止」という公園や広場が増えてきていることに危機感を感じ「ボール運動遊び教室」をボランティア活動として3年前に始めたことがはじまり。回数を重ねていく中で、低下が著しいとされる子どもたちの運動能力向上にも何か貢献ができないかということでドイツの運動プログラム「バルシューレ」を知った。年齢や性別問わず誰でも行うことができるボール運動プログラムで遊びの中で、投げる、蹴る、打つといったボール動作や走る、飛ぶ、登るといった運動能力など様々な能力を子どもたちに教えるのではなく、体験をさせて体で覚えさせていくというプログラムになっている。バルシューレ協会公認の指導ライセンスを取得し、バルシューレ理論をベースに毎回様々なボール遊び、ボールゲームを子どもたちと楽しんでいる。時には大人（ビジネスパーソン）も自身の経験を活かして専門的なことを指導したり、子どもたちと一緒にゲームに取り組んだりしながら楽しい「遊び」の時間を過ごしている。用具は様々な大きさのボールをはじめとして、投げ当てる的やゴールも用いており、打つためのスティックも使っている。他には子どもたちがよじ登るジムや平均台なども用意している。（場所の問題で毎回用意できないものもある）場所は神奈川県川崎市多摩区の長沢地域にて2才～6才の子どもたちを対象に毎月行っている。その都度参加できる大人の人数にばらつきはあるが、毎回5～10名程度が参加をしている。

③ 決算報告書

収入	大同生命厚生事業団助成金	100,000円
支出	会場費（区民体育館 4000円/2h×14回）	56,000円
	用具、機材購入費	52,987円
	用具車両運搬交通費（20回×210円）	4,200円
合計		113,187円



室内を利用したの教室風景。

外と違って風がないため様々なボールを使うことができます。

スポーツが大好きな子から普段はあまり外で遊ばないという子まで幅広い層の子どもたちが参加してくれています。



外での教室風景。中の教室と違って思いっきり投げたり、走れたりするすることが特徴。

大人たちのアイデアで様々なボールゲームが毎回創作されています。